

歴

史資料館だより



No.114
教育委員会文化財課
文化財グループ
(☎58-5111・75-3111代表)

文化財課
ホームページ



第17回企画展

「真壁城跡、発掘の現在」

「発掘成果から読み解く真壁城の構造と変遷」

開催

真壁町古城に所在する真壁城跡は、平成6年（1994年）に国史跡の指定を受けました。現在はこれまでに進んできた発掘調査の成果に基づいて整備工事を進めています。

発掘調査により、真壁城は室町時代の後半に築城されたことが判明しました。そして、戦国時代の終わりにかけて様々な改修が施され、現在みられるような大規模な城郭へと発展していったことが分かっています。

に、出土した多くの資料の中から、興味深い品々を一挙に展示します。今回の資料館だよりでは、その中のおすすみをいくつか紹介しましょう。

1つ目は、漆器の椀や皿です。発掘調査で出土するものというと、土器や石器を思い浮かべると思いますが、これは土器や石器などが残りやすい素材だという理由があります。対して、木製の道具は長い年月の間に腐ってなくなってしまうこと



漆器の椀や皿

が多いので、あまり出土しません。しかし、水の中や泥の中に埋まっていると、腐らずに現代まで残ることがあります。こうして偶然残った木の道具のうち、漆器の椀や皿などを展示しています。漆器には赤や黒の漆が色鮮やかに残されています。

2つ目は、サイコロと盤双六の駒です。サイコロは白い石を削って作られ、現代のものと同じく、1の目の反対側は6、2の反対側は5、3の反対側は4になっています。盤双六の駒の方は土器の破片を削って作られています。

盤双六とは、2人で遊ぶもので、盤上に置かれた15個の駒をどちらが先に全てゴールさせるかを競うゲームです。

現代の双六とは違い、バックギャモンと呼ばれるゲームに近いものでした。盤双六は飛鳥時代には日本に伝わり、広く遊ばれていきましたが、しばしば禁止令が出されるほど、人々が熱中しすぎるゲームだったようです。真壁城にいた人々もこのサイコロを振って盤双六に興じていたのでしょう。

企画展ではこの他にも珍しい資料をたくさん展示しています。ぜひご覧ください。



サイコロと盤双六の駒

印刷のことなら おまかせください!

名刺・はがき・チラシ・ポスター・伝票・封筒・賞状・のし紙・パンフレット・冊子
データ入力 製本 封入 その他



株式会社 デジタル印刷

〒300-4404 茨城県桜川市真壁町白井44-5 ☎0296-54-2626

糖尿病専門医・内分泌代謝科専門医

県西糖尿病内分泌内科クリニック

院長 樋田 武史

診療時間	月	火	水	木	金	土
午前 8:30 - 12:30	○	○	○	○	○	14:00まで
午後 14:30 - 18:30	/	○	○	/	○	日・祝休診

筑西市成田678番地(筑西警察署斜め向かい) 電話:0296-48-9609
予約制のためお電話でのご予約をお願い致します